

# 自動玉切装置の鋸屑収納について

新城営林署 後 藤 静 男

1 最近国有林及び民有林を源となす清流の利用が盛んで、又国有林に対する国民の関心が高まっている今日、生産事業を実行する者として当然清水を汚し、又末木枝条等で水害の原因とならない様に、事業を実行しなければならないのです。

団子島事業所の事業地も御多分にもれず、段戸国有林を源となす清水を利用した、淡水魚の養殖がおこなわれ、その関係からも問題の起らない様に、事業を進めるために、鋸屑収納ダストを作成し、取付けて実行しましたので、その概要を発表いたします。

## 2 事業実行箇所の概要

鮎釣で有名な寒狭川の上流部に位置する人工林ヒノキを主体とする針葉樹林分であります。

(位置図で説明)

## 3 事業地の作業条件(表で説明)

生産予定量 1,500  $m^3$  に対する鋸屑も、大量に出るものと想像されます。

4 最初に申しました対境関係について、実行にあたっての問題点は、次のとおりです。

- (1) チェンオイルの付着した鋸屑は、少量といえども流出できないこと。
- (2) 林道、排水管を詰らせないこと。
- (3) 盤台撤収後に、川床整理に人工を掛けないこと。

以上3点を目標に、ダストを考え作成し収納しました。

5 ダスト作成に要した資材及び人工は別表・図のとおりです。

6 完成したダストの取付も図のとおりです。

7 実行結果は別表のとおりです。

8 以上の結果から利点として

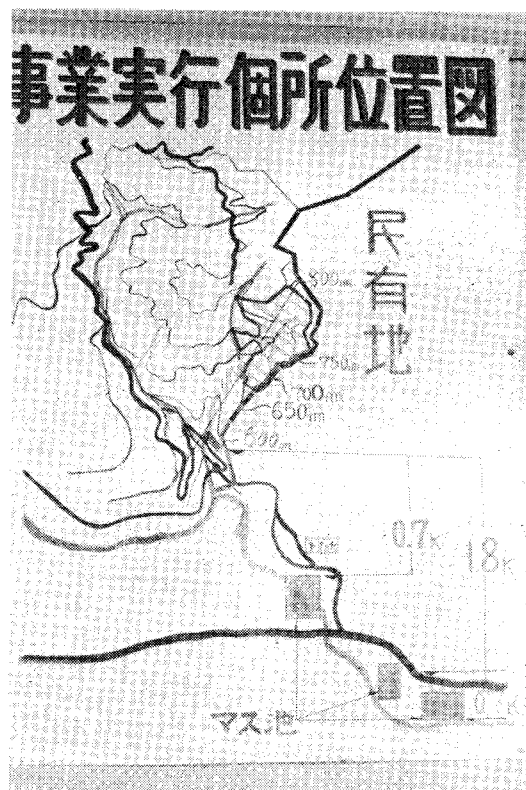
- (1) 事業実行中对境関係に問題が起こらなかったこと。
- (2) 林道の排水管を詰らさずに終わったこと。

- (3) 川床整理が0であったこと。
  - (4) 盤台撤収跡に鋸屑の山がなく、きれいであったこと。
  - (5) 事業終了後、11月17日の降雨（事務所雨量計147%）の時も鋸屑等の流出がなかったため、下流養殖業者よりも問題が出なかったこと。
  - (6) 鋸屑を林地に還元することが出来たこと。
- 等の利点が有ったと思われます。

## む す び

事業実行当初に問題として考えた下流対環境関係もダスト使用で解決出来ました。

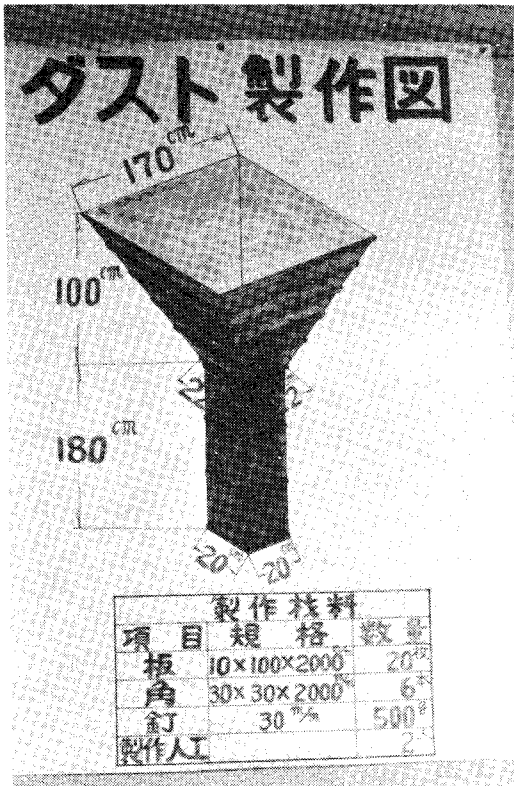
今後も事業を実行してゆく上に特に対境関係を大事にし、全員で話し合い明るい意欲的な職場で製品生産事業を進めたいと考えております。今後の事業実行に当り、皆様のご批判と、併せてご指導を賜りたいと思ひます。



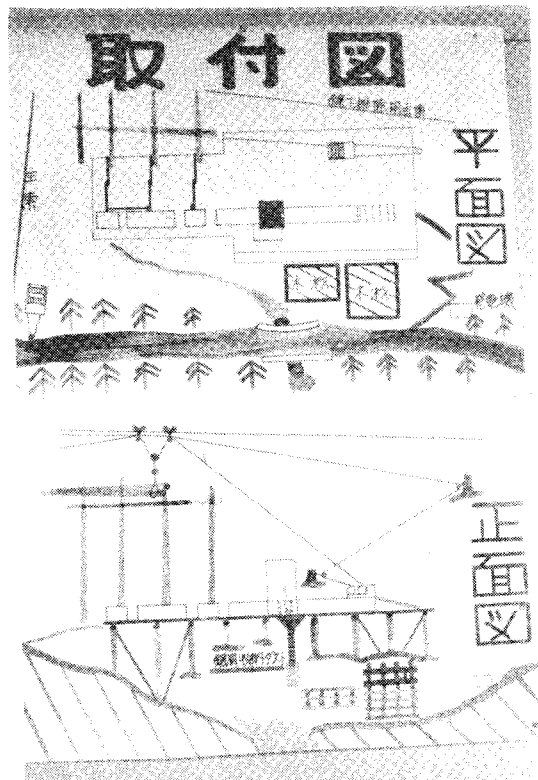
事業箇所位置図

事業地の概要		実行結果		
場所	段戸国有林106林班	実行期間	5月26日～10月20日	
HA本数	986本	台数	18.5台	
HA蓄積	403 <sup>m<sup>3</sup></sup>	川床整理	0x	
石回り	0.41 <sup>m<sup>3</sup></sup>	稼働日数	81日	
針葉樹率	91%	旧時割取数	3x4系	
平均直径	24 <sup>cm</sup>	全回収数	285x	
平均樹高	18 <sup>m</sup>	鋸屑処理	林班内処理	
林地傾斜	30°	運搬	林班外処理	
生産数量	N材	1345.625 <sup>m<sup>3</sup></sup>	袋	法木袋3未詳
	L材	134.270 <sup>m<sup>3</sup></sup>		
	計	1479.895 <sup>m<sup>3</sup></sup>		

事業地の概要と実行結果



ダスト製作図



ダスト取付図

## 問題点

- ／チェーンオイルの附着した鋸屑は少量でも流出は出来ない事。
- ／林道排水管を詰らせない事。
- ／盤台撤収後川床整理に人工をかけない事。

## 利点

- ／問題点の3点は解決しました。
- ／11月17日降雨(147%)の時も鋸屑の流出もなく下流養殖業者より問題が起らなかった事。
- ／鋸屑を林地に還元する事が出来た事。